

広報

あさくら



2017
平成29年
1月1日号

No.259



あけましておめでとうございます。
1月1日、蒸し雑煮はじめました。

詳細は、23 ページへ



蒸し雑煮
Chikuzen Asakura MUSHIZOUNI

「住みたい・住み続けたい」 と感じられる朝倉市へ



新年おめでとうございます。
皆さまには、平成29年の新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。
旧年中は、市政に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
特に昨年は熊本地震や阿蘇山噴火、相次ぐ台風上陸などにより多数の災害が発生しました。被災されました皆さまにお見舞い申し上げますとともに、一刻も早く元の生活に戻ることができまますようお願い申し上げます。引き続き、朝倉市としてもできる限りの支援を行ってまいります。
さて、朝倉市は、平成18年3月の誕生より着実な歩みを進め、昨年、市制10周年の節目を迎えました。目まぐるしく変化する社会情勢の中、少子高齢・人口減少は年々進行し、核家族化なども伴い、地方創生に象徴されるように、地域のあり方も変化しております。
人口減少に歯止めをかけ、地方に活力を取り戻すため、朝倉市においても、人口の現状分析と将来人口の推計を示した「人口ビジョン」と、5箇年（平成27年度～31年度）の基本目標や具体的施策をまとめた「朝倉市総合戦略」を策定し、

平成二十九年元旦
朝倉市長
森田俊介

- ① 特色を生かした仕事ができる朝倉
 - ② 誰もが住みたい朝倉
 - ③ 安心して結婚・出産・子育てができる朝倉
 - ④ 地域の個性で輝く朝倉
 - ⑤ 全力で魅力を発信する朝倉
- の5つの柱を掲げました。
私たちの住む朝倉市には、地域資源が数多くあり、発展の可能性を秘めています。これら地域資源を結集し、次の、そしてその次の世代も朝倉が好きになるようなまちづくりを皆さまとともに進め、一つひとつの課題を確実に解決していくことで、全ての世代の方が「住みたい・住み続けたい」と感じられる魅力ある朝倉市に向け、全力で取り組んでいきたいと考えております。市民の皆さまには、市勢発展のため、さらに一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
新春の門出にあたり、市民の皆さま方のご多幸を心からお祈り申し上げます。新年の挨拶といたします。

今年
酉
年

平成二十九年は酉年です。十二支の動物の中で唯一の鳥類です。干支の「酉」は「ニワトリ」のこと。鳥というとニワトリ（鶏）を思い浮かべる人も多く、それだけ人間となじみの深い鳥といえます。
「鶏鳴」という言葉があるように、ニワトリの鳴くころといえば明け方近くです。最近、朝の合図でもあったニワトリの鳴き声を聞くことも、姿を見ることも少なくなりました。昔は農家の庭先などで飼われていて、文字どおり「ニワトリ」でした。現在は鶏舎などで飼われることが多いため、触れる機会も少なくなりました。
「鶏口となるも牛後となるなかれ」は、ニワトリを小さな組織、



夢のある朝倉市へ 開かれた議会を目指して



明けましておめでとうございます。
市民の皆さまには、輝かしい新年を健やかに迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。
また、日ごろから市議会に対して、ご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。
昨年4月、熊本地震が発生し、改めて自然の猛威と被災地の悲惨さを痛感いたしました。地震発生後8カ月が過ぎましたが、今なお復旧が遅れている場所も数多く見受けられます。被災されました皆さま、ならびに関係者の方々に對し、心からお見舞い申し上げますとともに、被害に遭われました地域の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。
朝倉市におきましても、更なる防災意識の高揚と安全対策および防災体制の強化を執行部と一丸となって進めていく所存であります。
現在、朝倉市は少子高齢化や人口減少といった課題に直面しており、「朝倉市総合戦略」の事業を推進しています。市内居住者や就労者、そして来訪者のために何が必要かを考え、現実的な観点から地域の特性を踏まえつつ、夢のある戦略を柔軟な姿勢で取り組むことが最も重要です。市議会といたし

ましても、十分に議論し、積極的に推進していく必要があると考えています。
本年も、市民の皆さまから信頼される身近な議会、分かりやすい開かれた議会の実現に努めてまいりますので、市民の皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。
結びに、この一年が皆さまにとりまして、健康で幸多い年となりますよう、心よりお祈りいたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

平成二十九年元旦
朝倉市議会議員
浅尾静二

明けまして
おめでとうございます

市議会は、二元代表制の一翼を担い、分かりやすい開かれた議会を推進するため、議会報告会や議会懇談会等を通して、市民の皆さまと意見交換を行いながら市政の充実に努めてまいります。

新年にあたり皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十九年元旦
朝倉市議会議員一同

牛を大きな組織にたとえて、大きな組織の属員になるよりは小さな組織でもその頭となるほうがよいの意味。小さくとも勇ましい鶏の姿が思い浮かびます。
「鳥」に関することわざ・慣用語は、次のようなものがあります。
「籠の鳥」は、籠に入れられた鳥は飛ぶに飛べないところから、自由を奪われていること。または、そのような境遇にある人。「一石二鳥」は、一つの石を投げて二羽の鳥を同時に打ち落とす意から、一つの行為によって同時に二つの利益を得ること。
昨年はリオデジャネイロオリンピックが開催されました。日本は、女子レスリングで伊調馨選手がオリンピック4連覇を達成。獲得メダル数は史上最多となり、まさに「飛ぶ鳥も落とす」勢いで日本中が熱狂し、2020年東京オリンピックにつながる大会となりました。
2017年は、スポーツだけでなく、経済、文化などでの「飛躍」も期待したいものです。
本年が、よい年でありますように。

13人・1団体を表彰

平成28年度 朝倉市表彰式

- ①功績、在職期間
- ②受賞者からひと言

●自治表彰
田中哲也さん
(日向石)



- ①市議会議員 (12年)
- ②自分の力だけでなく、周りの方々の強力なご支援のお陰によるものと感謝いたしております。

●自治表彰
平田悌子さん
(杷木久喜宮)



- ①市議会議員 (12年)
- ②光栄に存じます。朝倉市誕生の前後に、議会活動を通して、まちづくりに関わられたことを幸いに思います。

●自治表彰
手嶋源五さん
(佐田)



- ①市議会議員 (12年)
- ②今回の自治表彰大変光栄に存じます。今後とも健康には十分注意しながら、受賞に恥じない様に努めてまいります。

●自治表彰
草場重正さん
(下浦)



- ①市議会議員 (20年)
- ②皆様に支えられ、瞬間5期20年。今後も、地域奉公の覚悟と挑戦を忘れず、ご恩返しに尽力する決意です。

●自治表彰
桑野博明さん
(牛木)



- ①市議会議員 (12年)
- ②名誉な市表彰をいただき身に余る光栄に感謝しております。我がふるさと「朝倉市」が、行政、市民、議会とで魅力ある「ふるさと」となりますよう祈願しております。

●自治表彰
石井幸一さん
(甘木)



- ①消防団員 (24年)
- ②周りの皆様に支えられ24年間の長きを務めあげることができたことに、心より感謝申し上げます。

●自治表彰
稲永浩一さん
(甘木)



- ①消防団員 (21年)
- ②先輩、後輩に支えられ、21年間でやり遂げることができました。退団しましたが、今後もよろしくお願いします。

●自治表彰
安倍伊博さん
(佐田)



- ①消防団員 (22年)
- ②今回、表彰の御連絡を受け大変うれしく思っております。今後も消防活動に協力させてもらおうと思います。

●自治表彰
立石康弘さん
(杷木久喜宮)



- ①少年補導員 (26年)
- ②26年間警察および補導員の方々に大変お世話になりました。皆様の健闘お祈りします。ありがとうございました。

●自治表彰
秋山藤重さん
(杷木志波)



- ①環境美化推進委員 (13年)
- ②あたり前のことをただけです。表彰ありがとうございます。

●一般表彰
篠崎正嘉さん
(甘木)



- ①公衆衛生功労 (小学校歯科校医)
- ②朝倉市の学校歯科医として、これからも頑張っていきたいと思えます。

●一般表彰
羽野和信さん
(大庭)



- ①公衆衛生功労 (小学校歯科校医)
- ②市民の皆様のお口の健康に少しでも寄与できるように日々努めていきます。

●一般表彰
秋月寿会
(秋月)



- ①社会奉仕
- ②この受賞は永く清掃活動が続けてこられた先輩方の功績と感謝しています。今後も継続していく事を誓います。

●一般表彰
上原幸子さん
(山田)



- ①社会教育功労、社会奉仕
- ②生涯学習と社会貢献は私の目標で、実践が認められ光栄です。ご指導、ご協力、ご支援いただいた皆様に感謝し共に喜びたいです。

市の発展・地域社会に貢献した個人・団体を表彰

11月19日、ピーポート甘木で、市の発展や地域社会に貢献した個人・団体をたたえる表彰式が行われました。

式典では、森田市長が「本日表彰されます皆様方の率先垂範、献身的なご功労は、私ども常に、深く感銘しているところでございます」などあいさつし、表彰状と記念品を手渡しました。

また、受賞者を代表して、田中哲也さんがあいさつをされました。



▲受賞者のみなさんおめでとうございます



▲受賞者代表あいさつを行う田中哲也さん

平成28年度 朝倉市表彰式

第6回朝倉市の未来予想図

高校生の提言

10月22日、朝倉市内外の高校生が、「子育て世代が住んでみたいと思うまちづくり」について提言を考え、発表しました。審査委員により提言の独創性などについての審査が行われました。高校生ならではの自由な発想と、アンケートやデータを用いた提言が発表され、これからの朝倉市について考えるきっかけとなりました。

離乳食でイメージ改革

市と市内の飲食店が連携し、「朝倉のイメージ」を劇的に向上させるための「あさくらRe・New食プロジェクト」を提言します。

安心・安全な朝倉市産の食材を使った離乳食を提供する飲食店を増やしたり、授乳やおむつ交換の設備が整った施設を明確にしたりして、乳幼児親子が外出しやすいまちづくりを進め「子育てに優しい朝倉市」のイメージを発信します。

また、このプロジェクトの企画・宣伝、加盟店の手続きなどを行う第3セクターを設立し、妊娠中の人や、出産後の職場復帰を目指す人、元気な高齢者を雇用します。このように、今ある資源や人材を活用し、市のイメージを変えていくことで、移住者の増加や人口減少の歯止めになると考えます。



「あさくら“Re・New 食”プロジェクト」
朝倉光陽高校3年
「政治・経済」選択者B

ニーズに応える4つのC

子育てにかかる費用(COST)の負担軽減のため、市と店舗が連携し、割引制度を実施します。

子育てマップを作成し、分かりやすい情報提供を行います。また、いつでも安心して利用ができる、24時間受診可能で便利(CONVENIENCE)な小児科を設置します。

親どうしで不安や悩みを相談したり、交流したりする(COUNSEL)場所でもある子育て支援センターの魅力を伝える案内づくりをし、センターの活性化や知名度の向上を図ります。

今ある子育て支援の教室に、両親揃ったの参加を条件とした魅力的(CHARMING)な料理教室を加え、充実を図ります。

市が家庭に寄り添った政策を行うことで、子育て世代が住みたいと思う街づくりにつながると考えます。



「あさ暮らし」
朝倉東高校 こが〜ず

「環・輪・和」で朝倉を元気に

子育て世代が住みやすく、将来にわたって住みたくなる町にするために、次の3つの「わ」が重要だと考えます。

「環」状道路を作り、その内側に保育所や老人ホーム、ショッピングモール、公園などの施設を配置し、利用のしやすさや景観の良さ、安全性を備えた、サークルシティにします。

24時間預けることが可能な保育所で利便性を向上し、さらに老人ホームと隣接させることにより、子どもと高齢者が交流できます。ショッピングモールには地産地消を推進するレストランやママカフェを併設したり、ベビー用品を充実させたりして、子育て世代の交流の場になります。

サークルシティの中で、地域社会と各家庭の「輪」が、「和」をもって関わっていく社会の実現につながると考えます。



「つながってーばい! ~あさくらの“わ”~」
明善高校 Amazing ☆明善

将来を担う子どもへの投資を

親が安心して子育てができるまちづくりに関して提言します。

子どもの安全を守るために、完全会員制の施設を作り、親も子も過ごしやすいスペースを提供します。その施設に保育士や教員資格を持つ人を雇い、小さい子の世話や小学生の宿題を見てもらいます。

施設にはカフェスペースを作り交流の場にしてもらいます。

すべてのトイレにおむつ交換台を設置します。また、安全面を考え、防犯カメラの設置や指定場所以外の喫煙を監視します。子育てに関する講師を呼び意見交換会などを開きます。

将来を担う子どもへの投資をすることで、明るい未来が作られると考えます。



「私たちが子供を持ったとき」
朝倉高校 2年1組

「安心して生活できる」環境づくり

子育てをしやすい環境を作るには、次のような問題の解決が必要です。

まずは経済面での支援について、子どもの人数や年齢に応じた税金の減免、子ども用品の貸出しを行います。また、出産後の職場復帰の問題について、保育施設の拡充や求人情報の提供を行い、出産後の就労を支援します。

さらに、出産後不安定になる心と、育児の不安を取り除くために、子育て世代の交流、子育て相談を実施するとともに、地域で子どもを守る取り組みを行います。

最後に、子育てしながらの買い物は大変なので、公共交通の充実、買い物しやすい環境の整備を行います。行政と市民がしっかり連携して「安心して生活できる」環境づくりが大切だと考えます。



「朝倉をより良い環境に」
朝倉高校 2年5組

ママ目線で事業を展開

全国の自治体が出産率を上げることと苦勞している現状をふまえ、就職の問題、金銭的な問題についての対策として「ママたちの、ママたちによるママたちのための起業を支援する政策」の実施を提言します。

その会社は、社員を妊娠中、子育て中、子育てが終わった「ママ」に限定し、その人たちが働きやすい職場環境を備えることや、自分たちや子どもが将来住みやすい町にするための事業を基本理念として、全ての事業を「ママ目線」で行います。市は、場所・アイデア・人材の提供、税制上の優遇措置などで支援します。

この「ママ目線」のアイデアで、朝倉市から離れ市外にいる人たちにも望郷の思いを持ってもらえるような商品の開発や事業の展開が期待できると考えます。



「ママたちの、ママたちによる、ママたちのための起業支援 ~ママ3カンパニー~」
朝倉光陽高校 「政治・経済」選択者C

子どもへの配慮と支援の充実

市内各地域に、子どもたちが年齢に応じて別々に遊べる、安心・安全な小さな公園を作ります。

また、インターチェンジ付近に大型駐車場を設置するとともに、高速バス通勤者へ助成金を交付し、高速バス利用を促進します。

子育て世代間のフリーマーケットを開催し、必要なものを安くやり取りできるだけでなく、子育てに関する悩みなどを話せる機会を作ります。

子育て世代への支援の充実として、家の購入や出産などに対し、助成金や祝い金を出します。

この提案を実施し、市が子育て支援について積極的に情報発信することで、子育て世代の人口が増え、人の輪が広がる第一歩になると考えます。



「あさくらっしゃい」
朝倉東高校
CCP ~Child Care Project~